

タイトル	請求記号	
(大須真福寺) 庫裏 再建地築賑合図	市5-18	1804(文化元)年5月の大須観音の庫裏再建を記念して下納屋(中村区)が奉納した大ムカデ行列を表した図。中央付近にいる男性は三味線やうばが餅に興味がありそうですが手を引かれている子どもが行列を真似て手を挙げているのが微笑ましいですね。一緒に参加したいのかな。
古楽園随筆	市2-24	1817(文化14)年葛飾北斎が西掛所(にしかけしょ：現在の本願寺名古屋別院)で120畳敷の紙(縦約18メートル、横約11メートル)に大きな達磨大使の絵を描いたのだそうです。しかも即書だったとか！残念ながら実物は残っていないようですが、小寺玉晁など当時の“メモ魔”な方々の詳細な記録のおかげで、当時の様子をうかがい知ることができます。
(熱田) 御鋤祭	市16-12	御鋤祭とは伊勢神宮の御山に鋤形の榊が生えたのを豊年の予兆として祝ったもので、行列を催して村から村へと伝えたそうです。当時の人たちは、様々な仮装をしたり大きな作り物をひいたりして行列を楽しみました。
御鋤祭真景図略1〜3	A38/00075/ 1〜3	(1巻P47/21オ)大須裏からは、女形による「太夫の道中」が行列に登場。小さなおもちゃの傘をさしかけたり、おつきの禿(見習いの少女)が大男だったりとどこか可笑しい行列。現在の大須大道町人祭にも、花魁行列は引き継がれてますね。
金城温古録 御天守編	市13-240	名古屋でどえりゃあ大きいものって、そりゃあなんと言っても名古屋城！名古屋城と言えば金鯱！！そして金鯱にも大小があるのです。名古屋城の百科事典とも言えるこの『金城温古録』から、大きい方は南側の金鯱で、大きさは“尾先ヨリノ直高八尺一寸五分”(約2.47m)と分かります。
尾張名所図会附録 小治田之真清水 巻3	市13-46	芋畑の中をよ〜く見てみると…大たこが！！『小治田之真清水』では、昔はたこが釣れたという鳴海町蛸畑が、“章魚(たこ)畑乃古覧”として紹介されています。『本朝食鑑』が引用され、畑に入って芋を食べる大たこを怪物と見まがい驚く人々の空想画が描かれています。
大須開帳参詣案内記	市5-13	1813(文化10)年の大須観音の本尊開帳の様子が描かれています。普段は見ることのできない本尊聖観音像も特別に公開され、参詣者が本堂内陣まで入っているのがわかります。大須観音の本尊開帳は50年ごとに行われるとされていますが、その他にも様々な記念の年などに合わせて行われており、まさに大きな行事の一つといえます。
尾張年中行事絵抄 (合綴：尾張神仏年中行事)	市16-18	「鳴海八幡宮祭之図略」 一番右側に描かれているのは“猩々(しょうじょう)”と呼ばれる大人形(おおにんぎょう)で、中に人が入ると2メートルを超える高さにまでなります。両側に並んでいるたくさんの傘鉾(笠鉾)は毎年異なるものがつくられたと書かれており、ここでは大きな将棋の駒や蜻蛉、大根のような野菜などが見られます。